

平成 23 年度

病害虫発生予察特殊報 第 1 号

平成 23 年 6 月 1 日
茨城県病害虫防除所
TEL : 029-227-2445

ホモノハダニの発生について

害 虫 名 : ホモノハダニ
学 名 : *Petrobia latens* (Müller)
発 生 作 物 : ニンジン

1. 発生確認の経過及び県外での発生状況

- (1) 平成 23 年 4 月下旬、県西地域のトンネル栽培のニンジンにおいて、葉色が淡くなり生育不良の株が多数確認され（写真 1, 2）、症状が激しい株では葉が黄化した。被害株には赤褐色のダニが多発生しており（写真 3）、これらによる吸汁害と考えられたため、茨城大学農学部の後藤哲雄教授に虫体の同定を依頼した結果、本県では未発生のホモノハダニと判明した。
- (2) 本種は、平成 23 年 3 月に徳島県でトンネル栽培のニンジンにおいて同様の発生が確認されている。

2. 形態の特徴

カンザワハダニや赤色型ナミハダニに似ているが、第 1 脚が突出して長いのが特徴である（写真 3）。雌成虫は体長が約 0.7mm で、濃褐色ないし暗褐色、背面からみると楕円形で、側面からみると背が盛り上がっており、脚は細長く、第 1 脚は胴部と同じ長さかやや長い。

3. 生態の特徴

本種には、雄成虫は存在しない。幼～成虫が麦類、イネ科牧草、ダイズ、アズキ、インゲンマメ、イチゴ、ネギなど多くの草本類に寄生することが確認されているが、重大な被害をもたらすことはほとんどない。北海道では年間の世代数は 5 回で、夏場に第 2 世代成虫の大半が白色の休眠卵（写真 4）を産む（夏卵は濃赤色）。冷涼時でも動きは活発である。

4. 被害の特徴

吸汁により葉が退色し、吸汁害が激しい場合は葉の黄化や生育の抑制を生じる。

5. 防除対策

- (1) 高温となる夏季には、土中において休眠卵で越冬している可能性が高いので、被害のあった圃場では、夏季に被害が減少しても次作での発生に注意する。
- (2) 発生初期に、野菜類のハダニ類に登録のある農薬を散布する（表）。



写真1 圃場における被害の様子



写真2 被害株（葉色が淡くなる・葉の黄化）



写真3 雌成虫「茨城大学 後藤教授提供」



写真4 休眠卵（白色）「茨城大学 後藤教授提供」

表 野菜類のハダニ類に登録のある薬剤（平成23年5月11日現在）

薬剤名	希釈倍数（倍）	収穫前日数	本剤の使用回数（回）	有効成分－有効成分の総使用回数（回）
アカリタッチ乳剤	1,000～2,000	前日	－	プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル－
エコピタ液剤	100	前日	－	還元澱粉糖化物－
サンクリスタル乳剤	300～600	前日	－	脂肪酸グリセリド－
粘着くん液剤	100	前日	－	ヒドロキシプロピルデンプン－

※農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ使用してください。